

定期学習会の記録

2007/10/06 尾間木公民館

〔参加者〕 三浦 郡司 小松原 橋元 安藤 金子 吉永 大内

■日本国憲法と「世界の子ども権利条約」

生きる権利 育つ権利 守られる権利 参加する権利

1 生きる権利 「38条」戦争からの保護＝教育、経済、遊び、家族と共に生活する権利

○4つの子どもの権利について憲法との関わりを考えてみよう

憲法9条 武力行使を国際紛争の解決手段としない。

爆弾テロや銃撃戦による一般市民や治安部隊のイラク人の犠牲者はこれまで約1万4800人に達し、昨年1年間の計1万3811人を早くも上回った。1日の平均では62人で、昨年の33人を大きく上回っている。米軍はテロ掃討作戦を強化しているが、「一般市民の生活は、より危険になっている」

イラクには、まともに勉強ができない子どもがたくさんいて、私たちはとても恵まれていることを知りました。私は勉強がいやだと思っていますが、この子ども達と比べるとやはり恵まれているので、イラクの子ども達も勉強ができて、病院にも行けるようにしてあげたいと思いました。(10代・写真展での感想)

→戦場ジャーナリストの話から

・現実を伝えたいという思いが、命よりも大きく感じているのだろう。その人らしい生き方と思える人の気持ち。命はもちろん大切だが、それよりも大事なことに気づいた時にできることは、たくさんある。

・法律があるから自制がある。(人間の汚い部分を抑制できる)

・学校のいじめと同じようなもので、負の部分を探そうとするところがある。

・イラクの情勢はさらに悪化しているが、それはなぜだろうか。

・メディアによって、同じ事でも違う視点からの報道がなされている。情報の違いが見られる。

・NGOなど、市民レベルの視点もとても大切。人の心で感じる話を聞くことができる。

・伝えるということは、とてもむずかしい。自分なりのスタンスを持っていないといけない。新聞を読んだり、情報を得たりするときも、自分なりの見方が必要であろう。

・いろいろな視点から見ることで、全体像が見えてくる。

・子ども達に、しっかりした感性を育てていくこと。

→「修学旅行」という劇の話

・沖縄への修学旅行の話

・沖縄戦などのメッセージが込められている

・世界の話とのリンク。大陸と戦争のイメージ。

→世界には二つの考え方がある。

・力(武力)で解決しようとする。

・お互いに理解し合って(対話)解決しようとする。

→日本やドイツも、戦争に負けたから変わったということもある。

- ・命を奪うことはよくないが、どこまで武力が許されるのか。
- ・トップから変えていかないと、変わらない。
- ・100年のスパンで考えれば、確実に世界は良い方向に向かっている。
- ・自国の利益のために戦争をやるとは、おおっぴらに言えない状況になっている。

→人間として、使ってはいけない兵器

- ・原爆
- ・劣化ウラン弾
- ・枯れ葉剤 ベトさんの死亡のニュース

・人間としての感性が豊かな人が作ったものは人の役に立ち、幸せになる。感性がなく知識だけで作られたものは、人を不幸にする。

・悪いことをすることによって、解決に向けて考えるようになるということもある。例えば、戦争をすることで、それはいけないことだと考えることができる。歴史的に見ればいいことであるはずはないが。いろいろな面で考えてみななければいけない。

- ・ヘミングウェイの言葉。
- ・生きるエネルギーを与える。人間への信頼感を持たせる。
- ・「天国と地獄」長いスプーンの話。
- ・「蜘蛛の糸」「杜子春」の話。
- ・ペットの話。小さい頃から愛情をもって接することで、わかる気持ちがあるだろう。
- ・父が小さい頃の話をよくしてくれる。失敗談も含めて話せる父は、すばらしい。

→家庭の大切さ。

- ・親の接し方で、子どもは変わってくる。
- ・生まれた環境が大きく影響してくる。

○イラクの犠牲者数は、なぜ増えているのか。→次回

○憲法9条をわかりやすいことばに直して考える。→次回

○世界のこどもの戦争被害と生きる権利を考える。→次回

■広島の話（橋元）

→スケッチより

→原爆ドーム

■「地球では1秒間に1面分の緑が消えている」朗読（三浦）

1. 人類の誕生

→環境時計の話

□次回 10月13日（土）に変更

○ワークシートの続き・資料を持ってくる

○尾間木公民館文化祭について（10月19日搬入・20～21日）

○エベレストに登頂した野口さんの話から

○お礼状作成